

岩手県立花北青雲高等学校 創立40周年記念式典



生徒や教職員らが校史を振り返り、さらなる発展を誓った花北青雲高の40周年記念式典

伝統継承 発展さらさらに

花北青雲高

創立40周年祝し式典

県立花北青雲高校（小原和雄校長、生徒490人）の創立40周年記念式典は11日、花巻市石鳥谷町の同校で行われた。生徒らが節目を祝うとともに、伝統の継承とさらなる発展を誓い合った。

式典には全校生徒をはじめ、教職員や同窓生、来賓ら約700人が出席。小原校長は式辞で「同窓生への感謝の思いを胸に新しい歴史を築いていく。これからも本校を温かく見守ってほしい」と述べ、上田東一市長ら来賓が祝辞を寄せた。

生徒を代表して、学生会長の裨貫祥子さん（2年）が「切磋琢磨（せつさくさくま）を続けて青雲高校のブランド力を高め、本校がさらに発展するように精進していく」と答辞し、一層の飛躍を誓った。このほか、歴代の校長やPTA会長に感謝状が贈呈された。

式典終了後には、記念講演を実施。宇宙航空研究開発機構（JAXA）の久保田孝教授が「宇宙の謎を探る―小惑星探査機はやぶさの帰還」と題して、宇宙の神秘や日本のロケット技術について解説した。同校は花巻北高石鳥谷分校が独立し、1974年4月に花北商業高として開校。2003年に花北青雲高と改称し、情報工学、ビジネス情報、総合生活の3学科から成る県内初の総合的専門高校となった。分校時代から合わせて6204人の卒業生を輩出している。